

瓦谷山



瓦谷山だより

vol.39

発行日 2018年12月15日
発行人 (宗) 真光寺
岡本和幸
印刷 現代社
編集 (宗) 真光寺

問い合わせ先
(宗) 真光寺
TEL 0438-75-7414

○お寺HP
<http://www.shinko-ji.jp/>
○上総自然学校HP
<http://www.shinko-ji.jp/satoyama/>
○お寺ブログ【瓦谷山だより】
http://shinkoji.cocolog-nifty.com/ne_ws/

ごあいさつ

早いもので、歳の暮れを迎えます。今年は猛暑に水害、地震などが相次いだ一年でした。国内だけではなく、シヤンティ国際ボランテイ会が活動する東南アジアでも、インドネシアで地震と津波の被害、またミャンマー、カンボジアでも水害が続き、ラオスではダムが決壊し多数の被害が報道されました。地球温暖化が問題になって久しいものの、年を追うごとに危険が迫っているように感じられてなりません。ある調査によると、気温上昇や気候変動についていけない昆虫類の減少が続き、それを捕食する動物にも影響が及んでいるとか。そういわれてみると、自分が子供の頃うじゃうじゃいた雀や鳥、蟬やバッタや蝶々、蛙や蛇なども、かつてほどは見なくなっているような気がします。子供の目線と大人の目線の違いかもしれません。が、思っていたより広範囲にわたって種の連鎖絶滅が忍び寄っていることに恐怖を感じます。

今から三十年前、福井の大本山永平寺に入山した当時の永平寺は、零下十度まで冷え込むのに暖房は炭のみ、もちろんテレビもラジオもなく、朝はおかゆ、昼は麦飯と味噌汁に一菜、夜は二菜のつましい精進料理という生活で、朝ごはんを食べるとすぐにお腹が鳴っていたのを思い出します。脚氣を患う人が続出し、トイレが近くなって失敗する人もいました。

上山当初は、朝は二時半に起床して勉強し、

夜は十時半まで行事が続きます。ただただ眠い、寒い、腹が減る、これを耐えるのが修行なのか、と文句を言っていました。しかし何もかも足りないところから得るものもありました。まず、一日中寝ることばかり考えていたので、寝られる時間が来るのがとにかくうれしくて仕方がありません。人の欲望の第一は睡眠だったことを初めて知りました。寝ることができると、次は腹が減るのが一番こたえます。大の男が仏様に上げた御仏飯を巡って争いを繰り広げ、盗みに入っても食欲を満たそうとする者までいるのを見て、食事のできる有り難さが身にしみ、食欲は生きる基本であることを学びました。

さらにはお茶の時間に配られる新聞の切れ端を貪るように読んでいる自分に驚き、情報欲というのはこんなに強いものかと思いました。人は世間の動きを感じながら自分の立ち位置を決めているということに初めて気づいたのです。永平寺という小さなコミュニティの中の立ち位置は言うに及ばず、大きな世間という広がりの中で自らの立ち位置を無意識に確認しようとしている自分の姿に人は世間との関係の中でしか生きられないこと、繋がっていることで安心していった部分がたくさんあったことを発見する一方で、孤立することの恐ろしさを疑似体験できたような気がします。

足りないことが多くのことを気づかせてくれたのでしよう、こうした明け暮れを経るうち、多くの修行僧に、生きていくことがどんなに素晴らしいことか、さらに修行に打ち込めるのがどんなに有り難いことか、心の底からそう思える瞬間が訪

れます。私の場合は仏殿前の階段の掃きを掃除しているとき、なぜか涙が止まらなくなっていました。

中高年であれば、かろうじてかまどでの炊事や、五右衛門風呂に入ることがあるかもしれませんが、もっと若い世代は生まれたときから便利な生活が当たり前でしたから、修行という飽食で便利な近代社会から質素で自由のない世界へ放り込まれることをイメージしがちです。しかし昭和三十年代までは、「永平寺では一日三度ご飯を食べられる」といって喜んだ修行僧がいたといいます。かつての本山での生活は、市井の人々の暮らしより恵まれていた点もあったのではないのでしょうか。たしかに七百五十年前の開山以来、変わることなく修行が行なわれてきたとは言われますが、電気や水道は完備され、スチーム式の釜を用いて調理するので、生活はまったく昔と同じというわけではありません。今はむしろ、変わりゆく時代に流されることなく、いかに修行を続けるかが問われているのかもしれません。

仏教には「少欲知足」という教えがあります。時の為政者はしばしばこの教えを「置かれた立場に満足して上を目指すな」と解釈し、民衆を抑圧してきました。そのため現状肯定的な意味の言葉として今も受け止められがちですが、本来の仏教では「少欲知足」は人間の向上のために必須の教えとして語られています。地域紛争や世界大戦の根底に横たわっているのは経済の問題です。人間も社会も欲望のままに

貪ってれば、やがて不幸が訪れます。地球温暖化の問題が、まさにそのことを如実に示しているのではないでしょうか。自分を冷静に見つめ、きりがいい欲望に振り回されるのは愚行だと気づくことは仏教の根幹の教えです。

何のために修行をするのかといえば、それは成仏のためです。仏とは世間のことが良くわかり、確信を持って生きることができて、迷いなく穏やかでありながら、自分の人生を生き切る、命をいただくだけの価値ある生き方をする人のことです。そういう人になるために欲望を抑えて淡々と仏制に習い、自己と社会を見つめ、仏の行いを重ねていくのが修行であることを忘れてはならないと思います。こうした視点は人間普遍の課題であると思うのですがいかがでしょうか。

真光寺では薬師堂の建設に取り掛かります。また紫陽花散策道の建設も少しずつですが進めています。工事によりご不便の点多々あるかと存じますので、お参りの際にはお足元に十分ご注意ください。また住職はシャンティ国際ボランティア会への出勤が増え、何かとご迷惑をおかけしておりますが、僧侶としてやるべき仕事と思いい、全力で取り組む所存です。引き続きご理解ご協力を賜りますようお願いいたします。年末年始の行事が続きます。新しい一年の平安を祈るために、皆様お誘いあわせの上、ぜひご参詣ください。

真光寺住職 岡本和幸 合掌

行事報告

◇お寺婚活イベント『袖むすび』（七月）

七月十六日、真光寺において二十代から四十代の袖ヶ浦市在住者、在勤者を対象に婚活イベントが行われました。参加人数は男性二十名、女性二十名の計四十名でした。



住職によるお話から始まり、心理カウンセラーであり、魔法の質問インストラクターでもある真木麗子さんによるセミナーや奈良輪豊月堂による練り切り体験、その他にもバーベキューや花火等を行いました。男性も女性も和気藹藹と楽しく過ごせる素敵なイベントになりました。男女がお互いに気に入った人を選ぶカップリングタイムでは、なんと七組ものカップルが成立しました。



◇日帰り団参旅行（十月）

十月二十日は東京方面へ団参旅行に行っていました。真光寺檀信徒、縁の会の方、一般の方等合わせて二十名の方々にご参加を頂きました。当日の朝方は雨が少し降っていましたが、真光寺を出発する頃には雨は上がり、秋晴れの旅行日和となりました。

最初は曹洞宗のお寺である泉岳寺を参拝いたしました。赤穂浪士のお墓があることで有名ですが、ここは三学寮の一つになっており、昔勉強に勤しむ学僧達が修行生活をしていたお寺でもあります。到着して直ぐに記念撮影。それから本堂の中に入り、ご本尊様にご挨拶のお経をお唱えし、お焼香しました。その後、修行僧の方にお寺の歴史や赤穂浪士討ち入りの話を詳しく聞かせていただきました。他では聞くことが出来ない、討ち入りの時の裏話もお話ししていただき、皆興味深く聞いていました。



泉岳寺を後にし、次に向かったのは両国。この日一番のお楽しみ、ちゃんこ鍋をお昼に美味しくいただきました。お昼の後には直ぐ近くにある江戸東京博物館を見学し、その後は映画「男はつらいよ」で有名な柴又に移動し、帝釈天を参拝し、柴又の雰囲気を楽しみました。

◇遺影撮影会

真光寺では遺影撮影会を行っております。いざ！という時、写真が無かったり、集合写真からの切り抜きで不自然な写真だったり。ご遺影は永く残る写真です、無常の風は時を選びません。ご遺族が困らないようまたご自身の納得できる写真を準備しておくことも大切です。真光寺遺影撮影会では季節の花々や新緑を背景に自然な表情でのご自身をお撮り致しますのでお気軽にお申し込み下さい。



◇秋彼岸会（九月）

九月二十三日は十一時に縁の会彼岸会法要、十四時に山門彼岸会法要を厳修し、同日の開催となりました。それぞれの法要の後、三遊亭遊里（さんゆうていいうり）さんによる落語を披露していただきました。



ただきましても迫力のある愉快な落語に会場が沸きました。

縁の会総会報告

第8回真光寺縁の会総会。この日もまた、例年と同じく快晴でした。今回はご参加が約140名様となり、過去最大となりました。

この日、特に関心をよせられたのは「真光寺の葬儀信託説明会」です。人生の最後に関わる全てを自分で解決しなければならない、という状況を社会が迎えていることの表れでしょうか。

真光寺の葬儀信託（以下、葬儀信託）は以前より会員の方々から寄せられた「亡くなった後の葬儀・納骨の手配、事務手続きをお願いしたい」というご要望に応えるものです。

懇意の弁護士の方にもアドバイスをいただき、今年度に入り、法律事務所ベストファームグループの社団法人シルバライフ協会（以下、SL協会）との協力体制が実現しました。専門家にも評判の良いSL協会は、真光寺の國生副住職の生家、亀堂院様の檀家総代様が設立した会社であることが重なるという縁がありました。

葬儀信託とは

まず、この葬儀信託が必要になる方は、お一人やご夫婦のみで暮らしている方、ご逝去後に遺族が死後事務を担うことが難しい場合が基本となります。また、煩雑な死後事務を専門組織に委託することによって遺族に負担をかけたくないという方も対象になります。

何ができるの？

SL協会が受託可能な業務は次の通りです。

- ・ご逝去↓かけつけ
- ・葬儀社連絡、ご遺体の引取安置、
- ・真光寺及びご親族連絡
- ・死亡届提出、火葬許可証の取得
- ・葬儀・火葬（喪主の代行）
- ・納骨、永代供養に関する実務（真光寺）
- ・行政官庁への諸届
- ・公共サービスの停止手続き
- ・入院費等の支払代行
- ・生前債権債務の精算
- ・施設、病院の残置物の整理、撤去、処分
- ・預託金精算報告
- ・遺品、遺産、形見の整理
- ・遺品目録の作成
- ・法定相続人の調査
- ・遺品、遺産の相続人等への引渡し

「ご逝去後、駆けつけから埋葬、遺品等整理までの一連の行動と事務」を委託することができるようです。ご利用にはSL協会と面談、契約が必要になります。

費用

事情がそれぞれ異なりますので、費用は一律ではありません。契約時の基本契約料に加えて、駆けつけから埋葬、遺品整理等までに付帯する実務費用、事務手数料がかかります。これらの費用は本人の没後に精算します。精算方法は次の二通りがあります。

ご寄進者ご芳名

金百 万円 川村榮子 様
 金拾伍 万円 木内保幸 様
 金拾 万円 大屋晋作 様

ご寄進いただき心より御礼申し上げます。
 皆様からのご寄進は諸堂建立に充てさせて頂き、食堂の寄進芳名単にお名前を記し、永く寺録に残させていただきます。

2019年 年回表

一周忌	平成三十年
三回忌	平成二十九年
七回忌	平成二十五年
十三回忌	平成十九年
十七回忌	平成十五年
二十三回忌	平成九年
二十七回忌	平成五年
三十三回忌	昭和六十二年
三十七回忌	昭和五十八年
五十回忌	昭和四十五年
百回忌	大正九年

1) 信託会社に預ける方法

信託会社とは預け入れた財産を100%保証する義務を負った法人です（信託銀行とは異なる）。ここに受託業務に必要となる予定金額を預け入れます。不足があつては葬儀信託の意味をなさないので、多めの預け入れとなります。

2) 遺産から精算する方法

必要な費用を没後に遺産から精算することを明記した、遺言（いごん）を作成する方法です。公正証書として作る必要があります。遺言には葬儀以外のこと、親族への遺産分配や未来への活用などを指定できます。

葬儀について

葬儀信託では、葬儀の内容はご本人の希望通りに施行できます。従来のお葬式でも一日葬でも可能です。葬儀信託を希望される方は簡素なお葬式を好まれる傾向があります。真光寺では簡素でも正式なお別れができるように「里山葬」を準備しています。（その他の葬儀も可能です。）

申し込み方法

個別の事情に応じた契約内容になりますので、まずはSL協会と面談をします。SL協会東京事務所を訪問されるか、スタッフにご自宅に来てもらうかを選べます。SL協会では、葬儀信託の他に生前に必要なサポート体制も整えていますので、必要に応じてご相談ください。

◆本寺報に「葬儀信託」および「里山葬」のパンフレットを同封いたしましたので、ご参照ください。



住職による会計報告。



新米や野菜も豊富な品揃え。



葬儀信託説明会の会場は満員に。



真光寺で栽培した自然薯も販売しました。



住職によるジャンティ絵本を贈る運動についてのお話。



今回二回目の出演となるびろきさんの漫談に会場は大盛り上がり。

さとやまさいじき 里山歳時記

農薬を使わないという選択をしてお米づくりをしている自然学校ですが、その甲斐もあってか毎年初夏の頃にはホタルが姿を見せてくれます。その年によって個体数の多い少ないはありますが、今年もまたホタルを見ることができた、変わらず里山で生き続けてくれたということを確認できるのもまた一つの楽しみです。自然学校に参加される方々も、お子さんの成長や仕事環境の変化などでお会いする回数が少なくなる方がいる一方で、新たに参加していただけるご家族もいらっしゃいます。時代が変わっても子どもたちの声が響き渡るような里山を守り続けたい。そう願っています。



手作業での除草によって
ホタルがすむ水質がたも
たれている。

一瞬の命を懸命に輝かせるホタル



大きくなくても草取りしにおいで～



イベントだより



一田植えとゲンジボタル鑑賞一

毎年6月に開催しているこのイベント。6月に田植え?と思われるかもしれませんが、これは古代米の一つ赤米の田植えです。しかもゲンジボタルが出没する時期と重なるため、田植えとホタル観賞と一緒に体験できるという一粒で二度美味しいイベントなのです。出来れば草取りもしていただきたいですがさすがにハード過ぎるでしょうか…



一稲刈り一

稲刈りイベントでは刈った稲をはざがけするところまでやっています。刈った稲はひもで縛るのですが乾燥して稲が痩せて抜け落ちないようにきつく縛る必要があります。はざがけもただ乗せるだけでは稲が回転して落ちてしまう。単純に作業するだけではなく、ひと手間、ひと工夫が大事ということも子どもたちに知ってもらえたでしょうか。



一収穫祭一

今年のお米の収穫高は48俵でした。キロに直すと2880kg!実りと米作りをお手伝いいただいた方々への感謝を込めて収穫祭では薪火で炊いた新米と焼き立てのサンマを召し上がっていただきました。今年はサンマも豊漁だったそうで、新鮮なサンマが激安!火おこしに奮闘してくれたのは元石油会社勤務のYさん。火の扱いは慣れたもので、新米を美味しく炊き上げてくれました。



イベントのご案内



皆様のご参加をお待ちしております!

- ・2月17日(日) 里山の野鳥観察会
- ・3月30日(土) 里山のお花見トレッキング
- ・4月13日(土) 畔塗りと稲苗作り体験
- ・4月14日(日) 畔塗りと稲苗作り体験
- ・4月21日(日) 巨木巡りと里山トレッキング

- ・5月11日(土) 田植え体験
- ・5月12日(日) 田植え体験
- ・6月 1日(土) 田植えとゲンジボタル鑑賞
- ・6月 1日(土) 水路の生き物観察会
- ・6月 8日(土) 田んぼの草取りとホタル鑑賞

※各イベントの詳細は別紙チラシ又はHPをご覧ください。

今年も里山の新米 好評販売中です！

お申し込みは別紙チラシを御覧ください。



価格表

白米: 2kg	¥1,100
5kg	¥2,500
10kg	¥5,000
玄米: 2kg	¥1,000
5kg	¥2,250
10kg	¥4,500
杵つき餅:	
8個入り	¥1,000
16個入り	¥1,800
古代米: 各種	¥300
色々米:	¥600

ご予約受付中！

天水と山のしみ水と有機肥料を使って丁寧に育てました。種子消毒以外農薬は不使用。里山の自然の恵みとお米づくりに携わった方々の手間ひまが詰まった里山米。ぜひ今年の新米もご賞味ください。お米の収益金は上総自然学校の活動資金にあてさせていただきます。



幻のもち米とも呼ばれる『つきみもち』を使った杵つき餅。甘みとコシのあるお餅をお正月にお召し上がりください。



毎年皆様に大変ご好評をいただいております。古代米と色々米は只今出荷準備中です。ご予約も受付中です。



里山の動植物図鑑

里山にすむ生き物たちをご紹介します！



里山にすむイトトンボ



オオイトトンボ



モートンイトトンボ



キイトンボ

目を凝らして探さないとまず見つからないというほど小さく繊細なイトトンボ。調査してみると自然学校の里山では数種類のイトトンボの生息が確認できました。イトトンボは飛翔能力がそれほど高くなく、元々水辺からあまり移動しないという習性のため局地的にしか生息していないようです。環境の変化に影響されやすいイトトンボ。自然学校では『トンボ池』という水場を作りイトトンボのすみやすい環境を維持しています。

ミャンマー仏教文化ツアー報告

真光寺職員 町田 敦

今年の6月下旬、私と職員の糸田氏の2名は当山の岡本住職が専務理事を務める公益社団法人シヤンティ国際ボランティア会（以下SVA）の企画する「ミャンマー仏教文化ツアー」に参加してまいりました。

SVAによる発展途上国への教育支援の現場視察とミャンマー仏教最大の聖地や世界遺産の古代都市郡の見学など、ミャンマーの仏教文化に触れるというのが今回のツアーの大きな目的でした。

一日目 ヤンゴンへ

今回のツアーにはSVAの職員、お寺のご住職夫妻、真光寺からは岡本住職、糸田、町田の3名の総勢10名（2名は現地合流）が参加いたしました。現地を訪れたことがないというSVA職員の要望を受け、また岡本住職も自身の仕事の身を真光寺の職員にも知ってほしいという思いから今回のツアーが企画されたそうです。

ミャンマーではこの時期雨期の真つ最中という情報通りヤンゴン国際空港に到着すると外は強い雨が降っていました。宿泊するホテルは発展途上国とは思えぬほど綺麗で清潔そして豪華で、本当にこの国に支援が必要なのだろうかと思うほどです。ひと休みしたのち現地で働くSVAの方々と夕食をとり、ホテル近くの酒場で親睦を深めます。お酒を飲んでいるとトイレに行きたくなります。ミャンマーのトイレ事情は先だつて視察に来た椎野氏に聞いていたので好奇心と恐怖心が入り混じった緊張感を持って臨みますが、なんと便器にはウォッシュレットが設置されています。しかも「ト



ウキョウスッキリ」とカタカナで書かれているではありませんか。この先に待つミャンマーのトイレに一抹の不安を感じながらホテルへと戻りました。

二日目 学校図書館訪問・地方都市ピイへ

二日目はSVAが活動する北部の地方都市ピイへ向かいます。ピイまでは長い道のりなので運転手はひたすら飛ばし、僅かな隙を突いて前の車を追い越します。途中、ラパダン郡にある学校図書館を訪問しました。

SVAが実施する、公立の学校を対象とした「ミャンマー読書推進事業」によって、私達が訪問する少し前にオープンしたばかりとのこと。どの年代の子がどのような本を読んでいるかを細かくチェック出来る仕組みを作っているそうです。挨拶の後、先生が絵本の読み聞かせを披露してくれました。読み聞かせながら所要所で子どもたちに問いかけをします。先生が「これはどういうことでしょうか？」と聞くと子どもたちが「なんとかかんとかです！」「といったやり取りが頻繁になされます。ただ読み、聞かせるだけではなく自分で考え、想像力を養うという作業も大事にしているそうです。読み聞かせが終わると子どもたちはそれぞれ自分の興味のある本を持ってきて読書の時間です。私達はその間に入っていく「これはなんて書いてあるの？」と話しかけたり、声を出して読んでくれる子の声に耳を傾けたりしていました。ミャンマーでは長らく続いた軍事政権の影響で文字の読み書きを学ぶ機会を持てなかった人々が多くいます。その結果仕事を選んだり

必要な知識を得ることが難しくなり貧しい生活を強いられます。さらに貧しさから自分の子供も学校に通わせることができず、負の連鎖が続いていくという構図が出来上がってしまいました。日本では誰もが自由に読みたい本を読む事ができます。しかし、文字を読むことが出来たなら別の人生を生きることも出来たかもしれないという母親に文字を教えてあげたいと熱心に絵本を読む子ども達の話を聞くにつけこの国へSVAが行っている絵本を送る活動の必要性を強く感じます。



子供と本を読む岡本住職

学校を後にし、さらにピイへ向けて走り続けていくと景色は畑や田んぼ、農村、時々市街地の繰り返しになります。道路はもはやアスファルトではなく土になり所々に水たまりができていたり、ゴミが道沿いに投棄されたままになっていたりという発展途上国の問題の一面を横目に見ながら予定時刻よりも遅れてピイに到着しました。チェックインを済ませ、部屋に向かうとするとトイレから戻ってきた糸田氏が開口一番「当たっちゃいました」と苦悶の表情を浮かべています。特に疑わしそうなものを口にした記憶はないのですが、とにかく部屋へ入ると再びトイレに籠もってしまいました。夕食はSVAの方々と日本食のレストランで食事の予定でしたが彼はそれどころではなく、一人ホテルに残ることに。ミャンマーで口にする日本食を堪能し、急いでホテルへ戻るとまだ苦しそうな糸田氏。明日からはさらにミャンマーの地元料理を口にする機会が増えてきます。この先を乗り切れるのだろうかと思いを抱きながらその日は眠りにつきました。

三日目 ヤダナミンズリ孤児院訪問

朝を迎えると糸田氏の体調は見事に回復していました。朝一番でピイのSV A事務所を訪問します。中では現地のスタッフが我々を歓迎してくれ、それに応える専務理事の岡本住職。大変な状況の中、子どもたちの未来のため、日本とミャンマーの架け橋になるために日々懸命に働いてくれていることへの感謝の意を伝えられました。ふと本棚に目をやると、ミャンマー語の絵本が並べられています。その絵本に翻訳シールは貼られておらず、最初からミャンマー語で製本されていました。所長の中原さんに尋ねたところ、SV Aが絵本を送る活動とは別に現地の作家を育てようという試みで開催した絵本のコンテストで入賞した作品を出版したものだそう

で外国から絵本を送ってもらいだけでなく国内の人材も育てようとミャンマーの団体と共同で企画運営しているそうです。



ミャンマーで出版された絵本

事務所を後にした私達はSV Aが支援するヤダナミンズリ孤児院を訪れました。到着すると大勢の子どもたちが長い列を作って出迎えてくれています。院長であるドーワナティリ尼僧の運営方針は「重症な病氣、感染症などを患っている子どもでない限り、預けられる子どもは全て受け容れること」七名の孤児を預かることから始めたこの孤児院には現在、総勢四四〇名が身を寄せています。ミャンマー国内で一定の知名度を持つようになったことで各地方からの引取要請が急激に増えてきているそうです。院長は、「孤児院には中



ドーワナティリ院長

学生の子どもが四〇人いますが、以前は教室が不足していたため外の中学校に通わせていて、そのため毎日お弁当を一四〇

人分作らなければならなかった。SV Aが建物を支援してくれたおかげで今は中学生はここで授業が受けられ、食堂と一緒に食事ができる様になったのでとても助かっています」と感謝の意を述べてくださいました。孤児院ではミャンマーの携帯会社とアメリカ系シンガポール人の支援を受けて現在新たな建物を建設中で五十年生用の教室として使う予定だそうです。しかし、それでもまだまだ建物は足りず支援を必要としていると院長は言います。また、現在の制度では孤児院や寺院学校は高校の教育ができないので、将来は私立の高校を建て、自分たちで教育をしたいという夢も語っておられました。

院長の話の後にミャンマー北部のシャン州というところからやってきた男の子と女の子に話を聞くことができました。シャン州では紛争の激化のため学校は全て閉鎖されてしまっ

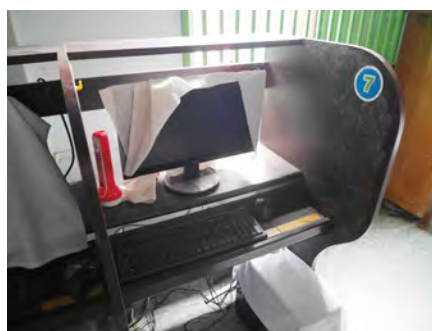


紛争から逃れ孤児院に身を寄せる子たち

たので、ピイに来て教育を受けているそうです。将来は何になりたいかという質問に女の子は「お医者さんになりたい」と答えました。男の子は「戦士になりたい。故郷で紛争に苦しむ家族を守るため

に強くなつて戦いたい」と答えました。方向性は違えど、二人とも人のためになることをしたいと考えているのでしよう。ためらうこと無く答えていたのが強く印象に残っています。孤児院での生活と教育が二人を良い方向に導いてくれることを強く願います。

子どもたちへのインタビューが終わると孤児院の中を見学させていただきました。その中で特に印象に残っているのがNHKが孤児院を取材した番組を見て共感したというシンガポール人の支援で建てられた建物でした。二〇一六年に建設された建物の中にはインターネットに接続されたパソコンが設置しており、誰でも自由に使えるようになっていました。しかしパソコンが実際に使われている様子が見られな



有効活用が望まれる支援物資

かったので疑問に思い聞いてみると、置いてはあるが使い方を知らない子が多いことと、停電したときに壊れる可能性が高いのでほとんど使われていないとのこと。支援のやり方の難しさを感じました。

「今日は来てくれてありがとう。機会があれば何度でも足を運んで欲しい」別れ際に院長がおっしゃった言葉です。建物を建て、教育を提供し、食事を与える。それぞれまだまだ足りていない中、支援を得るために多くの人に見てもらいたいのだと思います。私達が訪れた日、子どもたちの昼食が一品多かったらしいという話を移動の車中で聞き、なんとなく納得しながら孤児院を後にしました。

(次号へ続く)

行 事 予 定

“お寺で初詣” 年頭祈禱法要のご案内（元日～3日）

新年の安全・厄除け・諸願成就を祈念して個別のご祈禱を承ります。

右写真の木札を作成いたしますので、来山前にお電話等でお申し込み下さい。事前申込みが無い場合でもお受けできますが、お待たせすることがございます。

受付時間 午前9時～午後4時まで15分刻み（元日～3日 3日は正午まで）

法要時間 約15分

祈 禱 料 3,000円～5,000円程度

願 意 木札に書き入れます、2つまでお選びできます。

- ①家内安全 ②諸災消除 ③諸願成就 ④如意吉祥 ⑤交通安全
⑥合格祈願 ⑦厄除守護 ⑧身体健全 ⑨当病平癒 ⑩身体堅固
⑪良縁祈願 ⑫安産祈願 その他、車の祈禱等ご希望に応じてご祈禱いたします。

前年の御守、お札等がある方（当山以外の御守でもかまいません）はご持参下さい、お焚き上げいたします。



御仏供米
よろずのことに良い

ランドセル御守・ミニ御守
お孫様の交通安全に



交通安全
反射ステッカー

交通安全
御守



木札

※その他、恋の御守りや厄除け香守りなどご用意しております。

仏像彫刻教室

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第1・第3水曜日

13時30分～16時30分

費用：3,500円/1回参加

場所：真光寺（参加者が3名以上で開催）

仏師の先生にご指導頂き仏像を彫っていきます。初めての方でも大丈夫です。それぞれの方に
応じたペースで、取り組みます。 ※要予約

坐禅会

《どなたでも参加できます》

日時：毎月第2・第4土曜日

15時～16時30分

初心者の方もやさしくご指導いたしますので気軽にご参加ください。脚がくめない方は椅子を使って参加して頂けます。休憩をはさんで2回坐禅をくみます。終了後は、僧侶と一緒に茶話会も
ございます。

※初めて坐禅をされる方は、簡単な説明を致しますので14時30分までにお越し下さい。

精進料理と聖典講読の会

《どなたでも参加できます》

日時：1月29日（火）

4月23日（火）

2月26日（火）

5月28日（火）

3月26日（火）

6月25日（火）

午前11時～午後2時30分

費用：3,000円 昼食付（精進料理）

場所：真光寺

住職による『正法眼蔵随聞記』の解説の後、一緒に食事をして、午後は坐禅または写経を行います。昼食は、真光寺手作り精進料理や手打ちそばをお楽しみいただきます。



行事予定

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

修正会

《檀信徒》

日時：1月3日（木）14時より
年頭の檀信徒皆様の家内安全を祈願し、ご祈祷法要を行います。

春彼岸法要

《檀信徒》

日時：3月24日（日）14時より
春のお彼岸供養を行います。法要後には余興を予定しております。

紫陽花の会

《どなたでも参加できます》

日時：1月24日（木） | 4月18日（木）
2月21日（木） | 5月16日（木）
3月14日（木） |
午前11時より午後2時半頃

費用：1,000円 昼食付
境内や樹木葬墓地の植栽管理にご協力をいただく会です。花咲く寺を目指しております。是非ご参加下さい！ ※要予約

戒名を考える会

《縁の会会員 特に未授戒の方》

日時：3月12日（火）午前11時より午後2時半頃
6月11日（火） 〃

費用：3,000円（昼食付）
定員：20名

戒名を考えることは、人生を振り返ることです。午前中は戒名にまつわる仏教知識を学び、昼食に精進料理を頂きます。午後は住職指導のもと、実際にご自身の戒名を考えます。考えた戒名は後日の授戒式にて正式に住職よりお授けし、位牌に刻銘の上、観音堂にご安置します。

※要予約

※持ち物：漢和辞典

七日法要

《縁の会会員》

日時：1月7日（月）	11時より授戒式・月例供養、昼食（お餅つき）	午後は年頭祈祷法要
2月7日（木）	11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）	午後は坐禅・写経・写仏
3月7日（木）	11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）	午後は坐禅・写経・写仏
4月7日（日）	11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）	午後は花まつり法要と植樹祭
5月7日（火）	11時より授戒式・月例供養、昼食（精進料理）	午後は坐禅・写経・写仏

※要予約 午前、午後の方のみの出席もできます。

ご詠歌練習日

《どなたでも参加できます》

1月 8日・22日 | 3月 12日・26日
2月 12日・26日 | 4月 9日・23日
時間 5月～9月は19時半・10月～4月は19時より
※ご詠歌は、お釈迦さまの教えを讃え、ご先祖さまをうやまう心をやさしい旋律にのせお唱えするものです。

真光寺囲碁の会 初心者入門基礎講座

《どなたでも参加できます》

日時：4月2日（火）～3日（水）
14時から翌日13時30分解散
費用：8,000円 1泊3食
場所：真光寺

初心者の方も大歓迎！日本棋院六段の先生に基礎から教わり、囲碁をはじめてみませんか？日帰りのご参加も可能ですのでお問い合わせください。

※要予約



縁の会春彼岸法要

《縁の会会員》

日時：3月21日（木祝）11時より
縁の会合同での春彼岸法要を行います。
昼食（お弁当）のご用意を致しますので、参列申込みの際にお弁当の要・不要をお伝え下さい。
欠席の場合でもお塔婆のみのご供養もお受け致しますのでお申し付け下さい。

※要予約



団体参拝旅行



今回の団体参拝旅行は、日本仏教の聖地と言われる空海（弘法大師）の開いた高野山と、天台宗の本山である最澄（伝教大師）の開いた比叡山を巡る二泊三日の旅です。どちらも恐山と同じ途中、おみくじの開祖の元



不滅の法灯が灯される比叡山根本中堂。



一日目は高野山宿坊に泊まります。



国宝の東大寺盧舎那仏像。



宿坊の精進料理。

三大師が住んでいたと言われる比叡山横川の元三大師堂にて元三大師のおみくじもひけちやいます♪
仏に出会い、人に出会うお寺の旅。是非ご一緒しましょう！



日程：平成31年4月21日(日)～22日(火) 旅行代金：80,000円 募集人数：35名(最低催行人数20名)

送迎のご案内【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方（君津発逗子行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方（快速君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT9時46分着
- ・川崎発8時55分→袖ヶ浦BT9時57分着
- ・新宿発8時50分→袖ヶ浦BT9時48分着
- ・東京発9時15分→袖ヶ浦BT10時03分着

送迎のご案内【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方（木更津発普通千葉行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時51分着
- ・下り電車の方（千葉発普通君津行き）
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着
(千葉12時18分発)

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発11時35分→袖ヶ浦BT12時27分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時20分→袖ヶ浦BT12時18分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時45分→袖ヶ浦BT12時47分着
- ・新宿発11時20分→袖ヶ浦BT12時18分着
- ・東京発11時50分→袖ヶ浦BT12時38分着

各種お申込み連絡先

真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634

TEL 0438-75-7414 (代表) TEL 0438-75-7365 (縁の会事務局) FAX 0438-75-7630

e-mail ennokai@shinko-ji.jp (縁の会)

satoyama@shinko-ji.jp (上総自然学校)